

## 第1回NBRP カイコ運営委員会議事録

期日 10月5日(金) 13時15分～15時10分

場所 東京都千代田区三菱ビルコンファレンススクエア10階ルームA

出席者 上田 均、梶浦善太、神崎亮平、国見裕久、小林迪弘、嶋田透、  
田中秀穂、田村俊樹、蜷木 理、伴野 豊、藤原晴彦、前川秀彰、山崎由紀子、  
吉原 剛(代理出席:八重樫さつき)

### 1、委員紹介と委員長選出

運営委員会の位置付けと委員が紹介された。今期の委員はカイコユーザー以外に、事業期間中、原則的に現役であること、広く他分野の意見を取り入れる体制にするという趣旨により構成された。前川秀彰氏を委員長に選出した。

### 2、第1期、第2期NBRP 発足までの経緯説明

プロジェクト代表伴野から、2002年から2006年の第1期の経過、並びに第2期採択について資料をもとに説明が行われた。

### 3、19年度事業計画の概要説明と質疑

プロジェクト代表者並びにサブ機関代表者が19年度の事業計画の概要を説明した後、意見交換を行った。今回は初回であり、結論を出すことはなく、問題点を列挙する形となった。主な意見は下記の通りであった。

- ・ゲノム情報等整備プログラムについては採用されなかったが、単年度予算であるので来年度以降も申請があれば再申請する。
- ・資源のバックアップ体制の一つとして凍結保存が重要である。
- ・国際化を進める際に中国は窓口が1本化していない面がある。リソースを持つ欧州諸国(フランス、イタリア、ブルガリア等)とまずは進める方向が良い。進める場合は、寄託の内容について相手国に確認すること。
- ・人工飼料は良質なものを安定的に供給することがユーザーから求められており、NBRPとして事業を起こす必要を感じる。蚕糸学会で検討しているが対応が遅れている。サブ機関設置も視野の一つとして議論すべきではないか。
- ・人工飼料を食する広食性カイコ系統と良質な人工飼料とがセットで手軽に利用出来ることが世界のリソース、ユーザー拡大、研究推進のポイントになる。
- ・カイコの利用の広がりが周辺学会に浸透していない状況は改善をはかる必要がある。会長の協力を得て次回応動昆虫学会でのアピールを考える。
- ・野蚕利用に関しては野蚕学会との連携をはかる。引き続き遺伝学会、動物学会、比較生理生化学会との連携をはかる。
- ・野蚕はサクサンのみ海外に出している。
- ・収集、保存しているリソースの帰属と帰属先機関の規定を明確にする。
- ・リソースは、商業的価値があるものも多い。提供・利用に関して、これまでの対応を検証し、対応について検討しておく必要がある。
- ・教材としてのリソースの提供があるが、NBRPの一環として含めて良いか？
- ・教材としての利用の場合、MTAは交わし難い面があるので、教育機関向けのMTAを用意することを上部委員会で検討してもらう。
- ・情報センター整備プログラム(代表者:遺伝研山崎氏)のカイコのページからサブ機関

の情報も発信するように進める。アクセス数が多い状況にはないのでその対策を考える。

- ・リソース利用による研究成果発表に際しては、謝辞に関する例文をニュースレター等でお願ひしてきた。しかし、材料と方法で記載する方が相応しいケース、また情報センター整備プログラムからの情報によってリソース情報を得た等の記載例についても記載例文を運営委員会として考え、ユーザーに呼びかけることが必要である。

- ・運営委員は種々の会議や、研究会、市民講座等において、カイコリソースを紹介する場面がある。広報として効果が期待出来る活動であり、NBRP 事業の一環としての位置付けを明確にしておくべきである。